

平成30年度 第1回 広島県道路交通渋滞対策部会

議 事 録

1. 日 時 平成30年10月24日（水）14:00～15:15

2. 場 所 広島合同庁舎 1号館 附属棟 2階 大会議室

3. 出席者

[委員]

山田 明	国土交通省中国地方整備局企画部	広域計画課 課長
辻野 満	国土交通省中国地方整備局建政部	都市・住宅整備課 課長
吉田 真人	国土交通省中国地方整備局道路部	道路計画課 課長
後藤 英夫	国土交通省中国地方整備局道路部	交通対策課 課長
植田 雅俊	国土交通省中国地方整備局広島国道事務所	事務所長
岡本 哲典	国土交通省中国地方整備局福山河川国道事務所	事務所長
道中 貢	国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所	事務所長
井上 義典	国土交通省中国運輸局交通政策部	環境・物流課 課長
橋本 実千寿	広島運輸支局	首席運輸企画専門官 輸送・監査担当
重政 英治	広島県土木建築局	道路企画課 課長
吉田 晋司	広島県土木建築局	道路整備課 課長
菅島 章文	広島県土木建築局	都市計画課 課長
錦織 直紀	広島県警察本部	交通規制課 課長補佐【代理出席】
宮川 良彦	広島市道路交通局道路部	道路計画課 課長補佐【代理出席】
岡田 義成	広島市道路交通局道路部	街路課 課長
富田 貴敏	西日本高速道路株式会社中国支社	企画調整課 課長
本畝 学	広島高速道路公社	企画調査課 課長補佐【代理出席】
岩本 和則	公益社団法人広島県トラック協会	専務理事
中山 美和	一般社団法人広島県タクシー協会	係長【代理出席】

※敬称略

4. 議事

- (1) 規約の改正
- (2) 主要渋滞箇所のフォローアップ
- (3) 道路利用者団体と連携した渋滞対策
- (4) 平成30年7月豪雨災害による交通影響

5. 議事概要

<議事概要>

- (1) 規約の改正案について提案し、了承。
- (2) H29 対策実施箇所のうち、最新データ (H29.4~H30.3) による対策後結果の事例を紹介。併せて最新データによる各主要渋滞箇所のフォローアップ状況について報告。
- (3) 道路利用者団体と連携した渋滞対策の進捗状況について報告。
- (4) 平成 30 年 7 月豪雨による被災時の渋滞状況や、関係各機関と連携して実施した対策内容等について報告。

<委員からの主な意見>

- ・ 主要渋滞箇所の選定基準について誰にでもわかりやすく表現する必要がある。
(事務局回答) 視覚的にわかりやすく模式図を作成したい。

- ・ 赤坂バイパス東口交差点の 2 車線に増設した右折レーンについて、右折した先の道路が 1 車線であるため、それを見越した車両が片側の右折レーンに集中している。効率的に活用されるよう工夫できないか。
(事務局回答) 現地の状況を確認しながら、関係各機関と調整を図りつつ検討していきたい。

- ・ 広島城南～県立総合体育館前交差点の対策の表示方法は、車両移動時に瞬間的でしか目に入らないように思われるが、効果はあるのか。
(事務局回答) 関係機関との協議で決定している。対策後の効果の検証・フォローアップは実施する。

- ・ 主要渋滞箇所の選定基準を下回っている箇所もあるため、主要渋滞箇所の特定解除にむけ、各機関において早期に対策内容を整理して頂き、効果的・効率的に対策を実施頂きたい。
- ・ 全ての主要渋滞箇所について、短中長期の対策内容を定め、対策の進捗状況をフォローアップしていく必要がある。
- ・ 交通量や渋滞損失時間等も考慮して、優先順位を検討する必要がある。道路利用者目線に合うよう留意も必要。
(事務局回答) 短中長期計画について、関係各機関と連携しながら早期に検討を進め、次回に提示する。

- ・ 今回のように甚大な災害が発生し交通が混乱している場合、被災地域に流入してくる交通量を減らすという観点からも、関係機関と連携しながら、広域的な迂回の情報提供を積極的に広報するなど、被災地の中へ入らないようにする工夫を検討するべきである。
- ・ その際には料金施策の情報発信も行い、広域迂回誘導した先の道路にも交通が集中した場合、更に広域へ料金施策を行うなど、料金施策を含めた広域的な迂回誘導のやり方についても合わせて検討しておくべきである。
(事務局回答) 今回の豪雨災害においては、山陽道被災直後に中国道を利用した広域迂回誘導を実施しており、料金調整を含めた記者発表等で広報に取り組んだ。広域に転換が図られたという実績も出ているところである。頂いたご意見を参考にさせていただきつつ、今後も関係機関で取り組みたい。

以上